

二十五条の後悔

死ぬときに後悔すること。若い方はいまあなたが突然死んだとしたら・・・です。

- 1, 健康をたいせつにしなかったこと。
- 2, タバコをやめなかったこと。
- 3, 生前の意思を示さなかったこと。
- 4, 治療の意味を見失ったこと。

(有)西川経営オフィスサービス
中村会計
事務所便り
 2010年1月27日(水) N099
 地域から明るい未来を作ろう

- 5, 自分にやりたかったことをやらなかったこと。
- 6, 夢をかなえられなかったこと。
- 7, 悪事に手をそめたこと。
- 8, 感情に振り回された一生をすごしたこと。
- 9, 他人に優しくしなかったこと。
- 10, 自分が一番と信じて疑わなかったこと。
- 11, 遺産をどうするかきめなかったこと。
- 12, 自分の葬儀を考えなかったこと。
- 13, 故郷に帰らなかったこと。
- 14, 美味しいものを食べておかなかったこと。
- 15, 仕事ばかりで趣味に時間を割かなかったこと。
- 16, 行きたい場所に旅行しなかったこと。
- 17, 会いたい人に会っておかなかったこと。
- 18, 記憶に残る恋愛をしなかったこと。
- 19, 結婚をしなかったこと。
- 20, 子供を育てなかったこと。
- 21, 子供を結婚させなかったこと。

- 22, 自分の生きた証を残さなかったこと。
- 23, 神仏の教えをしらなかつたこと。
- 25, 愛する人に「ありがとう」と言えなかったこと。

いくつ〇がありましたか。12個(50%)以上は後悔を残した人生?とわたしは思うのですが・・・わたしは五つ(80点)でした。もういつでも死んでもいい?。まだ五つも残っていますが。

東京地検は米国の露払い・提灯持ち

「検察の正義」が常に「社会の正義」とは限らない、検察の判断が常に正しいとも限らない。

今回の東京地検特捜部の「やる気」は、尋常ではない。ターゲットを定めたら、徹底的にあらを探し、強制捜査の権限を存分に行使し、メディアを抱き込み世論操作を執拗に行う。その異様なまでの執念に、権力の恐ろしさを感ずる。

検察当局は、中国よりの?小沢一郎を権力から排除することが正義と信じてやまないようだ。その検察からすれば、昨今の小沢氏の言動は、憤慨に堪えなかっただろう。昨年5月、このまま民主党

が選挙に勝てば、代表だった小沢氏が首相になる、という時に、大久保秘書が起訴された事件の責任をとって、彼は代表の座から降りた。ところが、この事件が思いの外発展しなかったうえ、総選挙に大勝したことで小沢氏は政権に多大な影響を与える実力者となり、実質的には民主党政権の最大権力者となった。しかも、その民主党政権は、検察など官僚の権限を押しやえ込み、捜査過程の全面可視化も行うと公言している。小沢氏が検察の出頭要請を無視し、囲碁なんぞに興じている姿も、検察としては大いにプライドを刺激されただろう。

今度こそ、小沢氏を権力の座から放逐してやるという検察当局の意気込みが、メディアを通じ伝わってくる。

ありがとう

ありがとう。日本語の好きな言葉です。こんな美しい言葉は少ない。人が心の底から自然に発せられるものです。素直で自然だからこそ心に響くのです。大事な挨拶・相手の悟りの

小田和正さんの歌に、「言葉に出来ない」に、あ

誰かに喜んでもらえるだけいい。いつでも正直でありたい。



歌詞を思い出しました。歌は「文化」そのものです。